

～ 復興牧場での法人化による酪農の再開～

(取組主体名) 福島県酪農業協同組合
(運営組織) 株式会社フェリスラテ
(所在地) 福島市土船字新林25-17

～ 復興取組事例 ～
東日本大震災農業生産
対策交付金活用事例

<平成30年8月 掲載>

■ 組織のプロフィール

株式会社フェリスラテは、原発事故により避難休業した酪農家5名により平成26年4月に設立。平成27年に、飼養頭数580頭規模（常時搾乳500頭規模）の搾乳牛舎、ミルキングパーラー、堆肥舎等の施設整備を行い、同年12月から本格的な生乳出荷を開始した。

被災の概要

- 震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、原乳出荷停止や飼料の供給不足により県内の酪農生産基盤が弱体化。
- 福島県酪農協傘下では、62戸の酪農家が避難休業し、乳用雌牛約1,500頭、乳量の約30%が減少。

1. 取組のきっかけ

- 福島県浜通りの多くの酪農家が避難休業を強いられ、福島県内の酪農生産基盤全体においても甚大な影響を受けた。早期復興・避難休業者の一日も早い酪農再開への希望を叶えるため、一人でも多くの酪農家が経営再開を果たすべく大規模・共同経営方式を基本とし、これからの酪農先進モデルを目指して「復興牧場」の実現に取り組むこととなった。

2. 取組の内容と特徴

- 平成25年度は建設用地の選定、地域住民への理解醸成、用地造成設計・施設建築設計、そして造成工事に取り組み平成26年5月末に竣工。
- 平成26年度は7月下旬より建築工事に着手したが、想定外の転石除去が発生し、半年遅れの平成27年9月末に竣工。
- 大規模・共同法人経営を成功させるため、先進牧場での実地研修などで経営のノウハウを蓄積した後、経営を開始した。

経営再開の状況等

- 東日本大震災農業生産対策交付金を活用した復興牧場が平成27年9月に完成。

<飼養頭数>

- ・580頭規模
(常時搾乳500頭規模)

<出荷乳量>

- ・15トン/日前後

3. これまでの苦労話

- 牧場周辺地域の遊休農地・耕作放棄地等を、初年度は農地中間管理機構を介して約20haの借地を集約し、自ら牧草地への転換作業に取り組み自給飼料生産を進め、68haまで拡大してきたが、長い間使用されていなかった農地であることから、クマやイノシシによる食害も発生し、安定的に自給飼料を確保する努力は現在も弛まず行っている。

参考資料 [農業生産法人(株)フェリスラテ]

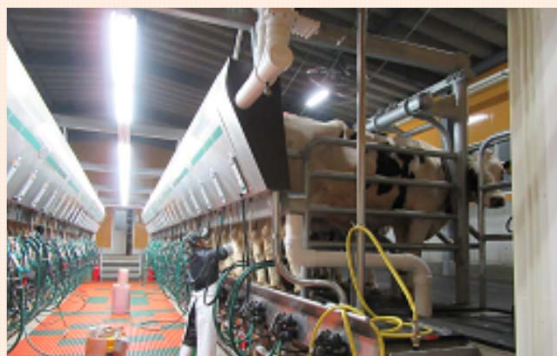
現場写真



(株)フェリスラテ全景（面積36,833m²）



搾乳牛舎外観



ミルクパーラー (20頭ダブル)



フリーバーン×TMR給与



哺乳母牛による哺育施設

～社名の由来～

フェリス（Feliz：スペイン語で「幸福」「幸せ」）・ラテ（Latte：イタリア語で「牛乳」）
この牧場から飲む人みんなを幸福にする牛乳を届けたい、
そんな5人の思いが込められた造語です。